

安全だより

無事故・無災害を自指して

2018年度(平成30年度)第3号

発行日：2018. 9. 26

発行：福山市新涯町二丁目21番30号

公益社団法人福山市シルバー人材センター

安全委員会

TEL (084) 953-5222

FAX (084) 953-5233

安全対策重点項目

[10月] 保護具装着・・・ヘルメット・安全帯の装着を確実にする。

[11月] 就業現場の環境整備・・・十分な作業計画を立て、障害物は撤去する。

熱中症対策期間終了と体調管理について

7月25日から開始した熱中症対策期間は、当初の予定通り8月31日で終了しました。今年は酷暑となり、会員のみなさんも作業が大変だったと思います。

熱中症及び熱中症が疑われる事案は、昨年度の3件から今年度の8件へと急増しました。特に

「平成30年7月豪雨」の発生直後から7月下旬にかけて、集中的に7件発生しており、これは、この間、一気に気温が上昇したこと、また、雨の影響で湿度が上昇したことが要因となったのではないかと考えられます。

幸い、いずれの事案も大事には至りませんでした。1歩間違えば、取り返しのつかない事案になっていた可能性があります。

センターとしても、急遽、各職域班リーダーに熱中症の緊急情報を送付し、注意喚起を行うとともに、8月からは熱中症罹患者を対象としたお見舞い金制度に加入しました。

これからの時期は過ごしやすくなりますが、寒暖の差で体調が崩れやすくなりますので、体調管理に努めてください。

また、夏場の作業の遅れを取り戻そうとして精力的に就業されている方も多いと思いますが、

無理をすれば、あせりが生まれ、事故を起こしやすい状況を生みます。安全就業を常に意識して作業をしていただきますようお願いいたします。

事故発生状況について

前号以降、傷害事故3件、賠償事故3件が発生しました。

[傷害事故]

①電球取替時の転落事故(6月23日)

施設の電球の交換にあたり、机を踏み台にし、作業を終え、机から下りる際、踏み段にした椅子を踏み外し、転落し、左手小指を骨折したものの。

②梯子からの転落事故(7月26日)

裏山の竹を伐採するため、高さ2m程度のコンクリート塀に梯子を掛け、上っていたところ、バランスを崩し、転落し、左鎖骨を骨折したものの。

③コンクリート塀からの転落事故(8月3日)

斜面の草刈作業を終え、高さ1.2mのコンクリート塀の犬走りを移動していた際、前方に木の枝が出ていたため、避けようとしたところ、バランスを崩し、転落し、左足踵を骨折したものの。

[賠償事故]

①電動門扉の破損(7月31日)

除草ゴミの回収時、回収車両を敷地内に入れるため、発注者に電動門扉を解除してもらおうと

呼び鈴を押したが、応答が無かったため、手で押して開けたところ、その後、施錠システムが機能しなくなったもの。

②自走式刈払機による破損事故（7月31日）

空地を自走式刈払機で草刈中、草むらに埋もれていたマンホールのふたに気が付かず、刈刃がふたに接触し、破損させたもの。

④肩掛式刈払機による破損事故（8月1日）

空地を肩掛式刈払機で草刈中、10m程度離れた場所に建物があったが、距離も離れているため大丈夫と考え、防護ネットを使用しなかったところ、飛散し、施設の窓ガラスを損傷させたもの。

[まとめ]

今回の傷害事故は全て転落事故ですが、全シ協の統計では、重度事故の約6割が「墜落・転落」が原因です。高所作業では、ヘルメット、安全帯等安全保護具の着用を徹底するとともに適正な脚立の使用方法を遵守してください。

賠償事故では草刈中の事故が2件発生しています。今回、刈払機による事故防止に特化した講習会を開催しますので、草刈作業を行う方は必ずご出席ください。

一人ひとりが「絶対に事故を起こさない」との気概を持ち、また、「どうしたら事故は防げるか」と常に意識しない限り事故は防げません。

今一度「発注者の期待に応えること」、「安全就業」について考え、これ以上事故を起こさないよう努めていただきたいと思います。

刈払機安全取扱い講習会について

刈払機の飛散防止、防護対策に特化した講習会を10月17日（水）に開催します。関係会員へは別途ご案内しますので、必ず、ご出席ください。

ハチ等に注意

6月号でも案内していますが、これからの時期、ハチ刺されによる傷害事故が懸念されます。

ハチは11月頃まで活動し、特に、スズメバチは9月～10月が一番活発な活動時期のため、次のことを参考に、十分注意してください。

[予防]

- 長袖・長ズボンを着用し、露出部分を少なくする。
- 黒色は避け、白や黄色の服装・帽子を着用する。
- ハチの巣には近づかない。
- ハチから警告を受けた場合、ゆっくり、静かに後退。
- 攻撃されたときは、追い払うと余計に興奮させるため、慌てず静かに立去る。
- 虫刺されの薬、殺虫スプレーを携帯する。

[刺された場合の対応]

- 刺された場所から遠くに離れる。
- 刺された箇所周囲を強くつまみ、毒を絞り出す。
- 流水等で水洗いし、タオル等で冷やす。
- 患部に虫刺されの薬を塗る。
- 発疹、流涙、せき、嘔吐、下痢の症状がみられる場合、一刻も早く医師の手当てを受ける。

また、複数の会員から、マムシやムカデの報告を受けています。作業時には手袋を着用し、場所によっては長靴を着用する等、対策を講じてください。

「ヒヤリ・ハット」体験事例提出について

8月末に「ヒヤリ・ハット」体験事例の提出をお願いしています。事故の撲滅には「ヒヤリとした」・「ハッとした」原因を究明し、克服することが重要な鍵となります。一部の方から提出いただいておりますが、まだ十分ではありません。是非とも提出していただきますようお願いいたします。

提出期限：11月20日（金）

提出先：本部または北部事務所